

令和6年3月

保護者の皆様

地域の皆様

世田谷区立千歳小学校

校長 石川 淳

## 令和5年度 改善方策について実行した改善結果について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

令和5年度に実施してきました改善方策について実行した改善結果をご報告いたします。

### 〈千歳小学校 教育目標〉

○よく考える子ども    ○思いやりのある子ども    ○体をきたえる子ども

### 〈令和5年度 学校経営の重点〉

#### 「自分が自分を育てる」千歳っ子の育成

- よりよく生きるために課題を発見し、他者とも協働しながら解決に向けて努力を続けられる児童の育成
- 自分や社会の未来を見据え、主体的に今できることを考え、主体的に行動する児童の育成

### 〈数値目標〉

- ・「自己の目標(ゴールイメージ)に向かって、自分であきらめずに粘り強く取り組むことができた」との感触をもつ児童の割合を83%以上。  
⇒児童アンケート結果 79.2%
- ・「自ら課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり整理分析したりして解決案など自分の考えをまとめ、表現していく探究的な学習が楽しい」との感触をもつ児童の割合を80%以上。  
⇒児童アンケート結果 72.8%
- ・「学習したことから自分は、何ができるかを考え、新しいことに取り組むことが好きだ」との感触をもつ児童の割合を73%。  
⇒児童アンケート結果 69.5%
- ・「かかわり合う活動を通して自分のらしさや友達の良さを大事にし、自分の考えをより深めることができた」との感触をもつ児童の割合を90%以上。  
⇒児童アンケート結果 87.1%

実施した施策	施策の効果
<p>くさまざまな教育課題への取り組み &gt;</p> <p><b>【学校生活の各場面で】</b></p> <p>○ ICT 機器を文房具として活用し、指導をより効果的に行う</p> <p>児童の意欲を高め、学びを深めることができるよう、タブレットの利活用を組み込む指導を校内に一層広める。状況に応じてオンライン授業や個別指導も実施可能に環境を整備し、児童が安心して学習できるようにする。</p> <p>○ 年間指導計画に基づいたキャリア教育の意図的・計画的な指導</p> <p>「キャリア・パスハンドブック」を基にキャリア教育年間指導計画を作成し、地域との連携も図ってキャリア教育を推進する。児童が当該学年のうちに自分らしさや得意なことを見つめ直し、これから伸ばしたい力や将来の在り方を考える機会を設ける。</p> <p>○ 学校2020レガシーによる具体的な取組</p> <p>「①ボランティアマインド」と「②障害者理解」を重点としてきた。ポッチャ体験や車いす短距離走の講演会等、ゲストティーチャーや講師を招聘しての学習を継続していく。国際交流活動とリンクすることで「⑤豊かな国際感覚の醸成」にも取り組む。</p> <p><b>【学習活動】</b></p> <p>○ 教科横断的かつ探究的な時間を創出</p> <p>総合的な学習の時間では、教科横断的に課題を見付け、自ら選択した方法で解決する学習を実施する。学習の成果は学習発表会等で下学年に披露する場面を設け、学校全体の学びが継続できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Teams やロイロノート、キュビナなどを使った授業づくりが教員の中に定着している。その結果、児童は、読む、書く、計算、ドリルワークなどの基本的な学習と、考えの共有や話し合いなどICT機器をより有効に活用した方やよい学習の両方を併せた学習ができるようになった。また、児童のタブレット使用が盛んになる一方で、学習や休み時間のタブレットの使い方には見直しが必要である。千歳小のきまりを作り、実施している。</li> <li>・ 全学年を通して、毎学期や行事の節目に、自己の目標を立て、その振り返りを行った。「キャリアパスポート」に教師がコメントをして児童の学びを励まし意欲を高めた。また、保護者のコメント欄を設けることで、学校と家庭での児童の成長を見守ることができ、同時に保護者へのキャリア教育への意識の向上が見られた。</li> <li>・ 福祉教育の観点から、第4学年を中心に、車いす体験やブラインドサッカーなど、障がい者理解教育を深めることができた。今後も、ボランティアマインド、障がい者スポーツ、国際理解・交流活動を継続してすすめていく。</li> <li>・ 学習発表会では、各学年が日頃の学習の成果を踏まえた内容を発表した。歴史や自然、キャリア、言語など、教師と児童が一体となって、学校独自でオリジナルの台本を作り上げ取り組むことができた。</li> </ul>

**○ 異学年や他校、地域社会等と広くかかわる活動の充実**

特別活動において、児童の自発性や創意を生かした活動を重視して取り入れ、集団の一員として参画する実践的な態度を育てる。特に、たてわり班やペアっこ活動等、異年齢の児童とかわる活動を通して、他を思いやる心や責任感、社会性等を育む。

**○ 家庭・地域社会との連携を生かした心の教育**

道徳授業地区公開講座や学校公開等の機会をとらえ、児童が考えている課題意識を保護者や地域の方々と共有することで、児童の豊かな心を育む。授業では自身の心情に向き合うことで他者を思いやる心や規範意識を育む「考え、議論する道徳」を推進する。

**○ 本物の外国語に触れる体験の充実**

A L Tや学習支援員と連携を図りながら、児童が外国語を使って他者とコミュニケーションする楽しさを体験できるような指導を行う。

**○ 多様性を尊重する心の醸成や多文化共生社会に生きる力を身につける取組**

ワールドルームけやき（日本語学級）で集積した帰国児童の知見を、校内に掲示し紹介することで、世界各国の生活に密着した情報・文化を全校に知らせる。

**【生活指導】**

**○ 安全教育全体計画に基づく重点的な生活指導**

安全指導の徹底を図り、身の回りの危険を避けたり、安全な環境を整えたりするスキルを身につけさせるとともに「自分の身は自分で守る」という意識を高める。

**○ いじめ防止の取組**

全教職員でいじめは絶対に許されないという

・感染症による自粛期間を終え、たてわり班やペアっこ活動等、異年齢の児童とかわる活動を計画的に実施することができた。他を思いやる心や責任感、社会性等を育むことができた。

・日々の道徳科の授業の実践や生活指導に加えて、道徳授業地区公開講座や学校公開を行うことで、学校のみではなく保護者や地域の方と児童の道徳教育について共有することができた。道徳授業地区公開講座では、講師をお招きすることで、「家庭による道徳教育」についても教師と保護者で考える機会をもつことができた。

・10月に都の施策「イングリッシュウィーク」を行うことで、日々の授業や学級活動、給食時間などにも英語でコミュニケーションをとる機会を設けることができた。放課後は、今年度よりA L T、英語支援員の協力のもと「イングリッシュスペース」を実施し、多くの児童参加した。

・ワールドルームけやき（日本語学級）に在籍する児童の音読発表会を通し、保護者向けに実施した。日頃より、担当教員が各教室へも入り担任と連携をとることで、学級の児童と帰国児童への知見や文化などの共有ができています。

・毎月の安全指導日、避難訓練など、日頃から、計画的に実施するとともに、学年や学級でめあてに対して振り返る時間を設けることで、年間を通して児童一人一人に「自分の身は自分で守る」という意識を高める取組ができた。

・日々の生活指導、学級活動や道徳科の学習を通して、児童一人一人の生活の様子

認識を徹底し、児童一人一人の生活の様子や友達関係をきめ細かく観察し、保護者との連絡等も併せて情報収集する。いじめを生まない寛容で共感的な人間関係を築く。指導にあたってはいじめに至った背景まで聞き取り、必要に応じて千歳小いじめ防止対策委員会を開いて組織的に対応する。

#### ○ 家庭との連絡体制、関係機関との連携強化

児童の情報を全校で共有し、定期的に家庭に連絡して様子を聞き、関係性を絶たないようにする。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係諸機関と連携し、状況の改善・解決に向けた方策を実施する。

#### 【特別支援教育】

#### ○ 配慮を要する児童への支援体制の充実

特別支援コーディネーターや生活指導教育相談担当が中心となって児童の状況や背景、前向きな変容の見られた手立てのケーススタディ等を生活指導全体会、児童理解のための研修会、生活指導夕会の場に企画する。

#### ○ 特別支援委員会を一層活性化させた特別支援教育の整備

保護者の理解を得ながら、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）や個別指導計画を作成し、個に応じた支援の充実を図る。また、すまいるルームと相互連携を一層充実させ、すまいるルームで得られた知見は全児童の指導にも活用する。

#### 【地域連携】

#### ○ 地域とともに子供を育てる学校づくり

PTA や学校支援地域本部、おやじの会の協力を得てによるリアル職業調べやものづくりや体験学習を積極的に取り入れる。児童に望ましい勤労観や職業観を育み、自らの生き方を考え、希望をもって将来の進路を選択できる能力の素地を養う。

や友達関係を細かく観察した。また、細かなことでも保護者に連絡をして情報共有を行った。必要に応じて、千歳小いじめ防止対策委員会を開き、組織的に対応した。

・児童の学校での学習の状況や生活の様子などで、気になることがあるとこまめに連絡を取った。その際、必要に応じて、スクールカウンセラーや子ども家庭支援センターなどの関係機関と連携を取り、状況の改善・解決に向けた方策を考え、実施した。

・毎月一回の定例に加えて臨時にも校内委員会を開き、特別支援コーディネーターや生活指導教育相談担当が中心となって、日ごろの児童の様子を報告しあった。また、児童理解のための研修会、生活指導夕会を実施し、児童の学級での状況や背景、前向きな変容の見られた手立てのケーススタディ等を教員全体で共有した。

・保護者の理解を得ながら、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）や個別指導計画を作成し、個に応じた支援の充実を図った。また、すまいるルームとの連携を充実させ、すまいるルームで得られた知見は全児童の指導にも活用した。

・キャリア・未来デザイン教育として、PTA や学校支援地域本部、おやじの会の協力を得て地域講師を活用する授業が定着してきた。児童が、自分の住む地域を愛したり、福祉感覚や望ましい勤労観や職業観を育んだりすることを通して、自らの生き方を考え、希望をもって将来の進路を選択できる能力の素地を養った。

**○ 学校運営委員会による地域教育力の活用、学校情報等の発信の工夫**

学校運営委員会ではプロジェクトチームが漢検やリアル職業調べ、小1サポーター等地域支援コーディネーターとともに子供たちの活動を支える。

**○ 学校情報の発信・広報**

学校情報の発信は学校・学年だよりはもとより、すぐーるやHPの各コーナー等を活用し、教育活動や学校生活全般の理解を促進する。

**【学び舎】**

**○ 学び舎の小中学校における学習活動等の連携**

学び舎の日に学習習得調査の結果や校内研究の概要、生活指導の状況、英語の指導についてなど各校の情報を持ち寄り、授業改善や重点化したい部分を共有する。

**【課外活動】**

**○ 千歳小吹奏楽団**

保護者の協力も得て児童の芸術に対する感性を涵養するとともに、校内や地域での演奏活動を通して、児童が相互に年長者・年少者へのかかわり方を学び、貢献感や学校を誇りに思う気持ちを育む。

・学校運営委員会では、4つのプロジェクトを実施した。今年度より新しく実施した低学年の投げ方教室（スポーツ）や花いっぱい活動、漢検など、取組が一層充実した。

・学校・学年だより、保護者会資料などをはじめとして多くの情報をすぐーるで発信した。HPも定期的に更新し、日々の児童の頑張りや教育活動、学校生活全般の理解の促進を図った。

・学び舎の日を中心に、学習習得調査の結果や校内研究の概要、生活指導の様子や英語の指導についてなど各校の情報を持ち寄り、授業改善や重点化したい部分を共有することができた。

・課外活動として、4年生以上の児童で千歳小吹奏楽団を組織している。保護者の協力も得て、校内演奏会や地域での演奏活動を通して、演奏する児童も演奏を聴く児童も、児童の芸術に対する感性を涵養した。また、吹奏楽団の児童は、相互に年長者・年少者へのかかわり方を学び、貢献感や学校を誇りに思う気持ちを育んだ。